

ウクライナ侵略いまずぐやめよ 核兵器の脅し、使用は絶対許さぬ！



ロシアによるウクライナ侵攻に抗議する人たち

**県労連などが
街頭で反戦の呼びかけ**

「ロシア・プーチン大統領はウクライナへの軍事侵攻をただちにやめよ」―県労連は県革新懇、国民大運動県実行委員会とともに、三月一日、JR山形駅前で約四〇人が参加してロシアによるウクライナ侵略に反対する抗議の反戦行動に立ち上がりました。

二月二十四日、ロシアは隣国ウクライナへの軍事侵攻を開始しました。二〇一四年のクリミア併合に続く暴挙であり、国連憲章をふみにじる蛮行です。

県労連の勝見忍議長は、ロシア軍がウクライナからただちに撤退するよう、「多くの人がSNSなどを使って戦争やめろの声を発

STOP WAR

同日には、県議会でも「ロシアによるウクライナ侵略に断固抗議する決議」を全会一致で可決しました。

ロシア大使館に 抗議のメッセージを！

ウクライナ大使館へは連帯のメッセージ送しましょう。

ロシア大使館メールアドレス
tokyo@mid.ru

ウクライナ大使館メールアドレス
ryouji@kv.mofa.go.jp

全労連はSNS上で下記のようなハッシュタグでの発信を呼びかけています。

#ロシアはウクライナ侵略をただちに止めよ
#ロシアのウクライナ侵攻に抗議します
#ロシアのウクライナ侵略反対
#即時撤退
#ロシア軍は軍事侵攻やめよ

金問題など年金の在り方も含めて論点を大きく構えて挑みました。それに比して裁判所の判断は、四〇年前の堀木訴訟（併給問題）と年金訴訟（減額）の主旨の違いを顧

生存権の実現求めたたかう

年金裁判で不当判決も逆転勝ち取る決意

県内12人(判決時10人)が国による2013年12月の厚生年金減額の取り消しを求めた裁判で山形地裁は、原告の請求を棄却すると判決しました。原告のうち9人は3月8日仙台高裁に控訴(1人は入院中で断念)しました。これについて、年金者組合山形県本部の松木静雄委員長にききました。

二〇二二年二月二十二日、本田裁判長は「原告の請求をいずれも棄却」とする」と主文を述べ、続いてその要旨を読み上げました。原告団の主張を悉く退け被告側の主張に沿った「不当判決」でした。全国で三九の裁判所で行われていたが、すべて敗訴となり、山形地裁の判決は三四番目です。

山形県の原告団は、全国五千人を超える原告の仲間と年金の削減を取り戻すこととやこれ以上の削減を認めないことを訴訟請求の趣旨としました。さらにマクロ経済スライドや女性の低年金問題など年金の在り方も含めて論点を大きく構えて挑みました。

最高裁に上告する決意を固め「大法廷」で「堀木訴訟」の判例を覆したいと思っています。

山形の原告団はすでに仙台高裁に控訴していますが、全国で四高裁に敗訴が出ています。仙台高裁でも厳しい判決となると思われますが、しかし、憲法二五条をめぐる「いのちのとりで裁判」では大阪地裁で勝訴しました。

「生存権を実現する政策は国の専門的な判断を要するので国に広範な裁量権を認める」という堀木訴訟の判例を乗り越えられない判決でした。

年金裁判不当判決に抗議し
逆転勝訴を誓い合う原告団と弁護士

発行責任者
勝見 忍

山形市薬師町2-6-15

TEL 023(615)2172

FAX 023(615)2173

URL: <http://www.yamagataroren.com/>

Email: yamagataroren@yahoo.co.jp

誰もが希望もてる公正な社会を

2022年国民春闘共同学習決起集会・ウクライナ侵略に抗議



ロシアによるウクライナ侵攻に
抗議のアピールをする集会参加者

本田宏氏迎え学習

「労働組合に期待されること」

県労連と県春闘共闘委員会、県医労連の三団体は三月五日、山形県二〇二二年国民春闘共同学習決起集会を開催。オンラインを含め組織内外から合計約八〇人が参加しました。

渡辺勇仁県医労連委員長の主催者挨拶に続き、医師で、NPO法人医療制度研究会会副理事長の本田宏氏が「新型コロナで明らかにな

向け労働組合に期待されること」と題して講演しました。

本田氏は、西南戦争後に政府の医療費抑制が始まり、現在の公立病院の少なさにつながっていることなど、明治の政治情勢まで遡って日本の医療の貧弱さの原因を紐解きました。OECD平均と比較して日本は約十三万人医師が足りないことを示し、医師は足りないの

ではなく「偏在」

しているだけとする国の主張を厳しく批判。

本田氏は、日本は諸外国に比べてマスメディアを信頼する人の比率が高く約七〇%となっていることにもふれつつ、報道の自由度が下がると衆院選の投票率も下がる相関にあることを示し、ドイツでは小学生がデモの手順を学ぶなど

教育の違いも指摘しながら、諦めず、正確な情報を普及し主張し続ける労働組合の役割を強調。ダジャレを連発しながらわかりやすくも勢いのある語り口で約九〇分縦横に語りました。

講演に続き医療現場と保育現場の代表各一人が報告し、要求実現の決意を表明しました。また集会参加者は、ロシアのウクライナ侵攻に抗議する特別決議を採択したうえで、プラカードを掲げてアピールしました。勝見議長が閉会あいさつを行い、参加者と団結ガンバロウを唱和しました。

医療・介護の拡充を 全国統一行動日に街頭アピール

国民春闘共闘・全労連が呼びかけた全国統一行動日の三月一〇日、医療・介護の体制・制度の拡充を求め、山形駅東口に県医労連や県労連加盟組織から約二〇人が参集し宣伝行動を実施しました。通行人に横断幕などで要求をアピールし、安全・安心の医療・介護・福祉を実現し国民のいのちと健康を守るための国会請願署名(いのち署名)への協力も呼びかけました。ロシアによるウクライナ侵攻抗



医療・介護の拡充を求め
アピールする勝見議長ら

三.一一東日本大震災・原発事故から十一年 生活再建制度の抜本拡充こそ ウクライナへの人道支援募金も呼びかけ

東日本大震災から十一年がたった三月十一日、「震災・原発事故避難者のためなんでも相談会実行委員会」(外塚功実行委員長)は山形駅・東西自由通路で被災者生活再建支援制度の抜本拡充を求める署名活動を行いました。また合わせてウクライナへの人道支援の募金も呼びかけました。参加者は「災害で住宅が倒壊しても、三〇〇万円の支援では家は再建できない。



住宅再建支援金の増額などを求め
署名に協力する通行人

せめて国の支援を五〇〇万円に拡充を」と訴えると、多くの通行人が足を止め署名に応じました。三〇代の女性は「心も体も疲れたままの状態です。被災者の生活と被災地の復興を願いながら支援したい」とペンをとりました。

募金の呼びかけでは、プーチン大統領に即時停戦を求めながら、通行人に支援をお願いしました。男子の高校三年生は大学受験の前日に始まった戦争を目の当たりにして、「受験は気が気でなかった。ずっと心を痛めてきた。ロシアはすぐに撤退してほしい」と語り財布からお金を取り出して募金してくれました。